

3. テーマ2「現状の分析と残り試合の戦い方」

岡本：それでは今のチームの現状というところでお話をさせていただきます。まず小倉監督になって6試合で1勝5敗ということで、この6試合非常に失点が増えています。それは前監督が最後、5試合というところでも非常に多かったのですが、その対応がまだまだ出来ていないと思ってます。私たちのサッカーというところは、ベースは守備にあると思いますので、しっかり守備を改善して、失点を少なくする。決定機というところでは、シュート数自体は変わってないのですが、点を取るチャンスというところでは、前期よりは増えてきていると思っております。決定機を決めるということと、守備をしっかり修正するということが、今後の戦い方になってくると思います。その中で1試合1試合、チームパフォーマンス含めて、勝利を目指して頑張っていければと思っております。続きまして、怪我が多い理由というところですが、アクシデントと練習疲労というところと、2つあると思います。その中で青木選手については、試合前の日の筋肉、肉離れということで、最後ボールに乗ってしまっただけというところがあるのですが、筋肉系の怪我というのはやはり練習、量を含めてというところがあると思います。それ以外の怪我については、やはりアクシデント、相手との接触であったり、そういうところが多いので、それについては予測していた怪我では無いところがあります。そこを含めて、今チーム状況、全体の人数も、皆さん何でこんなに少ないんだというところもあると思うのですが、それについては昨年も同じような人数で戦ってきました。そういったところは今後に生かしていければと思っています。ですから怪我というところでは、アクシデントによる怪我が多いというところが現状であります。

小倉監督の評価というところですが、これについては先ほど言った通り成績が出ていません。それについてはまだまだ評価は出来るものではないと思っております。ただ、守備の改善であったり攻撃というところは、小倉さんの色を出してきていると思いますし、選手もそれについて全力で取り組んでいます。やはり結果というのが全てだと思ってますので、結果を出すためにやっていきたいと思っています。小倉さんについては、色々な経験があり、戦術的な部分でも長けていると思ってますので、信じてやっていきたいと思っています。

司会：それでは質疑応答に移らせていただきたいと思います。ご質問のある方、挙手にてお願いいたします。

質問者9：こんばんは。今日はこういう時間をいただきまして誠にありがとうございます。小倉監督になって、6試合で勝点3、1試合あたり0.5点ということで、ベルデニックを解任したときの公式発表では0.57点で、勝点53を達成出来なかったからということになっておりますが、1試合あたり0.5ということに対して、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

司会：事前質問にもありましたが、岡本GMよろしく申し上げます。

岡本：まず勝点というところについては、勝ちきれていないと非常に強く思っております。

連敗する、勝点取得率が低ければ解任するののかというところについてですが、それについては、これ以上チームが改善することが難しいという場合については検討いたします。ただ小倉監督がやっていることについては、まだまだこれからチームが向上する可能性を非常に秘めていると思っています。もっともっと1試合1試合を含めて、毎日のトレーニングの中で高めていければと考えております。ただ勝点を取れてないということについては、先ほど言った通り満足いくものではないと思っています。

司会：よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。すみません、真ん中の列のほうの女性の方。

質問者 10：本日は貴重なお時間いただき、ありがとうございます。今までお話を聞いていて、いくつか私の中で疑問に思ったことがあるので、質問させていただきます。今お話にありましたように、監督についてはまだまだこれから評価するという事なんですけれども、先ほどの精神論の結果の話になってしまうんですが、一体感が保てなかったというお話がありました。先日のFC東京戦を見て、私はこのチーム、5対2という結果ですけれども、5点取られたというところに一体感の無さが露呈してしまっているのではないかなと思います。また、先ほどのお話にもありましたように、継続が目的ではなくチームの強化が目的だというお話もありましたが、ではなぜ監督がこれだけ数年間で変わってしまって、監督が継続出来ないのか、その方向がまず問題なのではないかなと思っています。

今後まだあと今シーズン7試合ありますが、先ほどの話になってしまうんですけれども、チームがもう一度一体感を持ってですね、頑張れるように、勝点を積み上げられるように、何か選手同士、監督同士、今シーズンの残り、経営陣も含めてお話し合い等々されているかと思うんですが。今後の残り7試合、勝点53を目標としているということもありまして、ちょっと話がまとまってなくて申し訳ないんですけれども、勝点53を目標にするためにベルデニック監督を解任されたと思うんで、今後勝点53取れなかったときに、どういった責任等々、現在お考えのところもあるかと思いますが、その辺りも少し含めて教えていただければと思います。

司会：はい、ありがとうございます。改めて一体感ということで、FC東京戦のお話があったと思います。そちらが1点目と、監督の継続性について、先ほどご説明さしあげましたが、再度2点目ご回答させていただくということと、責任に関しましては、3つ目のテーマとさせていただいてはいるのですが、現状でお話出来るというところでご回答をさせていただきたいと思います。今の3点について、岡本GMよろしく願います。

岡本：まずFC東京戦の一体感というところなんですけど、試合は勝つことが出来ませんでした。最後ああいう形で失点したというところで、集中力の欠如と思われるかもしれませんが、我々としては、選手は戦う姿勢を持ってやっていたと思っています。1点ビハインドというところで、攻めに行かなければいけない状況の中で、リスクを冒していった結果がそのような形になったと思います。特に選手たちが、私の感覚の中で何か迷いを持ってやってくるかというところでは、だいぶ整理されてきているんじゃないかと思っています。

選手も1試合1試合全力で取り組んでいる中で、チームも向上していくと思っております。

次に監督の継続性というところなんですけど、その時々チームの状況をですね、何が足りなくて、チーム状況が悪いのかということを考えて、監督については決定をしております。残っている方の選択肢というものを含めて検討しているところであります。監督が長続きしてないというところは、我々としての人選、基準というところで見直さなければいけないことかと思っております。

最後の責任問題というところでは、私はGMとして、チームの編成であったり、監督・スタッフの編成をやらせていただいています。私が判断して決定したことでありますので、成績についての責任は私にあると考えております。しかるべき時期に判断させていただきたいと思っております。

鈴木：一体感の話、私が記者会見のときにお話ししたのですが、一体感が無いから監督交代という話になっていて、今も一体感が無いから負けた、FC東京戦も負けたという風な形におっしゃられて、まったくその通りだとは思っています。ただ同じ一体感が無いっていう中でも、春先に比べれば確かに一体感が無いんですが、じゃあ選手が誰かのせいにするみたいな、最悪そういうことって負けてるとあるのですが、うちのチームってありません。すごくみんなで頑張って、とにかく8連敗はしましたけど、また1勝してまた連敗してますが、でもみんなでやっぱり頑張ろうじゃねえかという思いは、すごく練習してても伝わってきています。

じゃあ結果出せよって言われれば、結果が出てないので何とも言えないのですが、信用してくれとしか言えないので。それと責任問題の話ですが、GMはそのしかるべき時点で、どこかの時点でと話はしていますが、最終判断、決断者は私です。今年の1月のサポーターズミーティングでも言わせていただいたのですが、社長としてその責任の取り方も含めて、私がどうするかは、私は私で判断させていただきます。それが責任の取り方なのだと思います。責任をどう取るか、どういう責任の取り方にするかも含めて、私が最終責任だろうと思っておりますので、そういうことで理解していただきたいと思っております。GMを契約しているのも私ですし、監督と契約しているのも私です。当事者ですから。最終的に私が責任の取り方をどうするかというのは、私は私で、取り方の中身も含めてですね、判断させていただくということで、理解していただきたいと思っております。

司会：ご質問の3点についてよろしかったでしょうか。それではご質問のある方、挙手にてお願いします。後ろの背広の方。

質問者 11：ありがとうございます。今の2番目の質問なんですけど、今の話からいくと、残り試合全て小倉監督でこのまま行くということなんでしょうか。あとですね、これが1つの質問でもう1つ、もういくつかあるんですけど、小倉監督あと残り7試合続けるに対して、期待した結果が出なくてもそのまま続投させるのか。あとですね、この先7試合あるんですけど、これから改善していくであろうという希望的観測でGMの方は話されているんですけど、今の状態はもう後半戦1勝しかしてないという、もうかなり厳しい状況であって、もうレッドゾーンに入ってるんじゃないかと私は考えているんですけど、もう少し危機

感があってもいいんじゃないかなと感じるんですが、その辺をお願いします。

司会：ご質問3点いただきました。残り試合小倉監督で継続するかどうか、これ以上成績が落ちることがあっても、さらに続投するかどうかという2点目。3点目は改善・危機感の質問3点ということをお願いします。

岡本：まず1点目の小倉監督で行くのかということについてですが、基本的には小倉監督で行きたいと思っております。2点目の続投というところなんですが、それは今シーズン、契約自体は今シーズン限りとなっておりますので、今シーズンの残り試合も含めて判断したいと思っております。3点目の危機感というところは、選手も含めて私も危機感というのは持っております。特に上位にいたとき、勝つてるときもあったんですが、それでもJ1は甘くないというところを自分自身では感じておりましたし、選手も監督についても、危機感をもって練習に取り組んでくれていると感じております。

司会：よろしいでしょうか。

質問者11:考えたくないんですが、あともう2試合とか、ずるずると改善しないようだと、もうかなり厳しいんじゃないかと思うんですが、それでも行くということですよ。

岡本：たればというところはあまり考えていないのですが、小倉監督を信頼しておりますので、そういった中で出来ればと思っています。

司会：よろしいですか。他にご質問ある方がいらっしゃいますか。真ん中の水色のシャツの方、お願いします。

質問者12: すいません、質問させてもらいます。ちょっと奥歯に何か詰まったような言い方ばかりされてるんで、本来のミーティングの意味がなかなか無いのかなと思うんですけども。アルディージャとして向かって行く方向って決まってるんですかね。継続性と言われてますけれども、一貫性、それはプレーのスタイルとか、サッカーに対するスタイルという一貫性はあるんでしょうか。その一貫性、例えば、方向とか南に向かいましょう、南に向かっているのに、南に向かうスピードが遅いから、もしくは北に向かうってベルデニックが言ったから辞めさせたんでしょうかね。というのがはっきり分からないと。反対したからベルデニックを切ったんだよということなのか、要は誰がチームの向かう方向を決めているのか。大きな方向は決まっていて、それに向かったんであれば、それはみんな納得すると思うんですよ。

チームの向かう方向というのは、それはもちろんユースもあるしジュニアチームもある訳なんで、その辺から一貫性を持ってないと、このチームこの先良くなっていかないと思うんですよ。その一貫性、その芯の部分ってしっかりしてるんでしょうか。それはチームの補強のポイントでもみんなそうだと思うんですけども。それに沿った形で今回、あと7試合小倉監督はやっていかうとしてるんでしょうか。その方針に従ってやっていって結

果が出なければ、仕方ないところもあるのか分からないですけども、その辺どうなんでしょうか。

岡本：私が考えていることは、個の能力で打開することではなくて、チーム、組織力というところでチームを作っていて、その中で個人が勝つようなサッカーが出来ればと思っています。1999年Jリーグに参戦したときに、ピム・ファーベークという監督が来ました。ヨーロッパスタイルのサッカーというところを作り上げていったのが、ベースになっていると思います。守備ですとか、攻撃についても、個の能力だけでは無く、組織で崩す、組織で守るようなサッカーが出来ればと思っています。特に今バルセロナのように、相手よりも1点でも多く得点を取るというサッカーというのはなかなか難しいと思っています。失点をしっかり抑えて、その中で得点パターンを増やしていく。シーズン開始のミーティングでもお話しさせていただきましたが、「堅守多攻」というような形で出来ればと思っています。育成についてもそれは同じような考え方でやっています。攻撃という部分を、個人ではなくて組織として崩して得点を取る。守備についても組織でしっかり守るところをベースでやっていければと思っています。

鈴木：私からもちょっとお話しさせていただきます。向かって行く方向性からの一貫性という話なんですけど、結果として継続性が失われているので、一貫性が無いととられているかもしれません。でも今回小倉監督に代えた理由、何で小倉監督にしたかというのは、それは去年からずっとアルディージャに携わってきていて、アルディージャの戦術なり選手起用なり、そういうことを知っているの、ベストだということで判断してやっています。戦術的にどうかと言うと、先ほど岡本が言った通り、ヨーロッパサッカーを目指すというスタイルについては変わってません。ただ結果が、申し訳ありません、私の努力不足かもしれませんが、毎年残留争いになる、そういう結果なものですから、なかなかそれを目指すような継続性が出来なくて、結果一貫性が無いように見られてるのではないかと考えております。

そういう意味で言うと、今年はベルデニック前監督を解任した訳ですが、小倉監督に代えたことで一貫性を保ち、また残り7試合しっかり頑張ることで成績を1つずつでもアップして、また来年の継続と一貫性に繋げていきたいというのが、クラブの思いといたしますか私の思いではあります。

司会：チームの一貫性、向かってく方向についてのご質問、以上でよろしいでしょうか。ありがとうございます。はい、マイクをお持ちしますので少々お待ちください。一番前の方です。

質問者 13：それでも私個人としては、もうこの際ある程度ベルデニックもある程度今の大宮に残すものも残したと思うし、この際これはもう私は個人としては問わないようにしたいと思うんですけども、ただ残り7試合なんですけども今の小倉さんも終盤から継いでるんで、やっぱり苦しい面も多々あると思うんですけども、岡本 GM さんから見て今の小倉さんのサッカーの戦術で、この来季のベースになるようなものっていうもの何か感じていらっ

しゃるでしょうか。

岡本：ベルデニック前監督のとき、前からプレッシャーをかけてディフェンスということでやっていたんですが、小倉さんも、それだけではJリーグは通用しないと認識しておりまして、守備でベースを築こうというところは非常に感じております。そういった中でやはり攻撃というのはどうしてもノヴァコヴィッチ、ズラタン頼りになってしまうところもあるのですが、そこについてはもっともっとバリエーションを増やしていくという考え方を持っていますので、それがチームの総合的な強化に繋がるものだと思っております。

司会：よろしいでしょうか。他にご質問ございますでしょうか。そうしましたらそちらの方をお願いします。

質問者 14：ありがとうございます。皆さんなんか大局的なことを聞いていながらこういう事を聞いていいのかなと思うんですが、各試合の細かいプレーについて伺いたいなと思っています。

まず1点目は、セットプレーの守備についてという点を、ちょっと私は問題があるんじゃないかと思っています。この間のFC東京戦でもセットプレーで2点やられましたが、それに限らずこちらが守る相手のコーナーキックなどで、相手の選手に合わされる展開があまりにも多いのではないかと、というふうに試合を見ていつも思っております。その点について強化部、首脳部の方々はどういう風に考えているのかってことを伺いたいなと。

もう1点は選手交代のタイミングについて伺いたいなと。ここしばらく相手に点を取られて、こちらが追いかけていなければならない展開が多い中で、交代選手を切るのが少し遅いのではないかと私は思うんですが、その点についてフロントや首脳部の方々はどのように考えているのか教えていただきたいなと思います。以上です、よろしくお願いします。

司会：はい、ありがとうございます。セットプレーについての対応と、もう1点は選手交代についてということで2点、岡本 GM お願いします。

岡本：まずセットプレーの守備というところでは、ここ最近クロス、横からの防衛に対するの失点が増えているのは統計で分かっております。監督・コーチも練習の中で、セットプレーの守備というのを取り組んでいる状況です。それとクロスというところも、やはり相手の押さえ方も含めて簡単に上げさせないという修正をしているところであります。

次の選手交代というところなんですが、今けが人が多くて、なかなか選手の選択肢を持ってないという状況があります。けが人が治って選択肢を持って試合に取り組むことが今出来ないと思っています。選手交代が遅くなると思われるかもしれませんが、相手の試合の流れですとか、そういうところを勘案しての決定だと思えます。

司会：ご質問よろしいでしょうか。それでは他にございますでしょうか。はい、一番後列の後ろから3番目のボーダーの方、お願いします。

質問者 15：すみません、2 度目で申し訳ありません。例年残り試合 7 っていうことでここ 3 年ぐらいは勝点 10 以上、13 点ですとか 15 点ですとか取れてたんですけども、これは強烈なプレッシャーの中で、何としても残留しなきゃいけないっていうところで取っていた点なんですけど、今年はまったくそういうものを感じないので、果たしてこれが取れるのかわかっていうことがあって。これが取れないと勝点 53 到達しない訳ですから大丈夫なのかなと。

その危機感の無さっていうことを感じる 1 つの要素なんですけれども、セレッソ戦でベルデニックさんが辞める直前のインタビューで、「ちょっとこれはもうどうしようもないので、守備のところは人数を多くしていかないといけないんじゃないか」ってことをおっしゃられて、で、その後解任になりましたが。でも結局その後 3 試合基本的には岡本さんが指揮執られたのと小倉さんが指揮執られたのを合わせて、マリノス戦になるまでそんなに大きくやり方が変わらなかった。

一体感ってことをおっしゃられる以上は、どういう状況にあるのかわかっていうのをずっと中でよくご覧になってお分かりになっていたと思うのですが、その辺の変化の遅さっていうのを感じまして、マリノス戦後もまた元に戻っちゃって 4-3-3 はありましたけども、また 4-4-2 で元に戻ってしまったっていうことがありますけども。あと、事ここに至っても覚悟が出来ていないなっていうような感じがあるんですけども、その辺果たして大丈夫なのかわかっての皆さん不安になってると思いますので、そのあたりお聞かせいただければと思うのですが。

司会：ありがとうございます。2 点いただきまして、例年の残留争いのときのプレッシャーと違う今の状況で残り試合で勝点上げられるかということと、もう 1 点がセレッソ戦以降の取り組み方、対応の仕方についてという 2 点で、それでは岡本 GM よろしく願います。

岡本：まず勝点 53 というところは、クラブも選手も含めて諦めておりません。今後勝点を積み重ねていくためには、やはり守備を安定させなければいけないと思っておりますし、その危機感というのは選手もスタッフも持っているつもりであります。

覚悟というところの中でシステムですが、4-1-4-1 にしたのに、なぜまた戻すんだとありましたが、それについては基本的には相手、けが人の状況等を含めて、一番いいシステムというのを考えて監督が選択して、勝利を目指していこうということが現況であります。

鈴木：私からも話をさせていただきます。勝点 53 については諦めてないっていうのは岡本 GM が言った通りです。システムの話については、4-1-4-1 でマリノス戦には 1-0 で勝つことができました。私は社長の立場で、失点を防げれば負けることはないんだから、勝点 1 は勝ち取れるよねっていう話はしています。ただチームっていうのは 4-4-2 で今まできているんですけど、チームの選手からすれば簡単に言えば守って守って守って守り切って、勝点 1 がいいのかどうなのか、というのは選手も含めて悩むところなんです。やはり 4-4-2 でこれまで結果を出してきている訳だから、仮に監督が結果出ないから、あまり言うとか言

ってるんだと言われるかもしれませんが、やっぱり選手からすれば4-4-2で結果を出してきているそのシステムで、やはりもう一回立て直そうっていうことを選手とともに監督は考えて進んできたのが、多分現状じゃなかったかと思っています。ただマリノスと戦うときにはやはり8連敗を阻止しなくちゃならない、しっかり守らなくちゃならない。で、4-1-4-1で守りきって1-0で勝った。

社長の立場から言えば、そのシステムで毎回1-0か、0-0で勝点1ずつ取ってくれて私は言いたいところあります。でもそれだと、っていう言い方はおかしいのですが、そういう形だとほんとに選手が納得して、いわゆるファン・サポーターがよく言われる「守ってカウンターだけかよ」と、「守って守ってカウンターだけしかやらないのかよ」ということにもなりかねないし、かつ選手の自信がほんとにそれで取り返せるのかというところはあるのではないかと思います。ただ結果が出てないので、そんなの言うんだったら結果早く出せよって言われるのですが。

でも選手が一番大事なのは残り7試合、本当に4-1-4-1、4-4-2でもいいし4-3-3でもいいのですが、自信を持って戦えるっていう試合を1試合やらないとやっぱり難しいんだろうなと、難しいというか7戦を7連勝という結果を出すことは、すごく難しいところがあるんだろうという気はしています。そのために今コーチングスタッフも含めて、明日レッズ戦がありますけども、どういうシステムでいくのか私も楽しみにしてるのですが、しっかり練習も含めてやってるっていう風に私は見えています。

司会：ご質問ありがとうございます。他にございますでしょうか。それでは、そちらの左側の白いシャツの方でお願いします。

質問者16：質問させていただきます。今先ほど社長さんがおっしゃった通り結果がすべて、プロの世界どの業種でもそうだと思います。その点でいいますと解任後ですね非常に連敗が続いてここにいらっしゃるサポーターの皆さん、悔しい思いで一杯だと今は正直そうだと思います。先日のFC東京戦も最後の試合終了間際に2点入れられたときは、ほんと泣きそうになりました。ほんと悔しかったです。というのは皆さん同じように感じてると思います。

それで今後の戦い方なんですけど、負けが続くときにですね、練習について見直しはされたのでしょうか。確かに今年は非常に暑い日が続く夏だったので日中練習するのは大変だったと思います。ですが、やはり弱いチームが強くなるには練習しかないと思います。マリノス戦確かに勝ちましたが、あのとき中村俊輔選手や中澤選手は真っ黒に日焼けしてました。それを見て、昼間も相当練習してるんだなという風に私は個人的にスタジアムで感じました。結局やっぱり弱いチームが強くなるには練習しかないと思います。そういったプロの練習の見直し、もしくはその時間、練習時間を倍にするっていうことはこの負けが続いてる中でされているのでしょうか。その1点だけです。

司会：はい、ありがとうございます。

岡本：練習時間の見直しはしております。ベルデニック前監督時代では、なかなか2部練

は無かったんですが、小倉監督になってから2部練を入れるようにしております。練習量を確保するというのと時間も含めて考えております。夏の暑い時期、一番鍛えなきゃいけない時期だということも認識してます。ただ、怪我というところも意識してやらなきゃいけないということも、やはり試合に向けてというところも勘案して決めさせていただいております。練習量というところでは、前の監督よりも増えていると私は認識しております。

司会：よろしいでしょうか。そろそろ3つ目のテーマにいかせていただきたいと思いますが、2つ目のテーマでご質問まだございますでしょうか。それではよろしければ3つ目のテーマに入らせていただきます。3つ目のテーマは「来季について」。来季に向けた監督人事や補強、チームが目指すサッカーについて現状の考え方と、そして現状のクラブの責任についてのご回答についてご質問させていただきます。こちらの回答についてはGMの岡本と、社長の鈴木より行わせていただきます。